

## 知っているようで本当は知らないEtc. ～『帳簿棚卸』と『実地棚卸』

中国の外商投資企業は、12月31日に一斉に決算を迎えます。決算に当たって、決算末日における資産及び負債の実残高を確認する業務が重要であることは、日本と中国とで異なることはありません。今回は、中国現地法人の決算業務における『帳簿棚卸』と『実地棚卸』を説明します。

### 1. 棚卸とは

決算業務においては資産残高の確認が必要とされますが、その中で、棚卸資産の残高確認のために、それらの数量を点検、確認する事を棚卸といいます。

中国現地法人は、税務申告の手続上、毎月の財務諸表の作成が必要とされています。したがって、決算に際してだけでなく、毎月の財務諸表を作成するために月末ごとに棚卸を行う必要があります。

棚卸には、大きく分けて『帳簿棚卸』と『実地棚卸』の二つの種類があります。

### 2. 『帳簿棚卸』

財務担当者は、毎月、倉庫から提供される入出庫記録（伝票）などの管理資料や仕入先から発行された発票、発注記録等などにより、棚卸資産の入出庫を帳簿に記録し在り高を計算します。このような過程により、帳簿に記録された棚卸資産の在り高を確認する事を帳簿棚卸といいます。

### 3. 『実地棚卸』

実地棚卸とは、月末や決算期日など、一定の期日を基準日として実際に倉庫等に赴いて棚卸資産の数量を実地調査により確認する事を指します。

### 4. 決算を迎えるに当たっての注意点

『帳簿棚卸』では棚卸資産の入出庫過程の確認はできますが、帳簿に記録されない紛失や盗難および毀損や減耗による棚卸資産の減少は把握することができません。それらは『実地棚卸』によって把握されることになります。このように、『帳簿棚卸』では増減過程の把握はできますが、実際の在り高を保証する事ができず、一方、『実地棚卸』では実際の在り高の把握はできますが、増減の過程を把握する事ができないといった、いわゆる「コインの裏表」の関係に両者はあるといえます。

通常、現地法人では『帳簿棚卸』により財務処理が行われています。『帳簿棚卸』においては転記誤りや伝票の管理不足等の理由から、正確な棚卸が行われていないケースも見受けられます。また、昨今では在庫管理のシステム化により、『帳簿棚卸』の迅速化と網羅性の向上をはかるケースも少なくありません。このような場合においても、データの入力段階における過誤が発生する場合には、結果としての棚卸が不正確となります。決算業務においては、『帳簿棚卸』では把握す

る事ができない棚卸資産の実際の在り高を認識するためにも、必ず『实地棚卸』を実施し両者の差異を把握し、その差異についての適正な財務処理が必要とされます。加えて、内部統制の見地からは、差異の原因究明と管理責任についての確認が重要といえます。

中国においては、現場で『实地棚卸』が実施されていたとしても、その結果が財務処理に反映されていない場合や、そもそも財務処理がいわゆる発票主義に基づいており、『帳簿棚卸』自体も実施されていないケースも見受けられます。財務諸表における棚卸資産の残高に異常を感じられる場合には、決算に先立って、棚卸業務手順や棚卸の財務処理への反映についての確認が必要と言えます。